

2022 年度 事業報告

役員会

目的 助産師のケアの質向上をはかり、専門職能団体として社会貢献を行う。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 運営基盤の確立</p> <p>2. 地域での助産師会の位置づけを強化する</p> <p>3. 人材育成と組織強化</p>	<p>1.</p> <p>1)事務所再生プロジェクトチームによる、今後の助産師会の活動を見据えた事務所再生の立案と実行</p> <p>2)会組織、業務の見直し</p> <p>3)各種会議の開催支援</p> <p>4)事業獲得(妊娠 SOS、産後ケア-アウトリーチ等)</p> <p>5)事務所の再生に伴い会での実行可能な事業を立案し実行する。(乳房ケア、育児相談等)</p> <p>2.</p> <p>1)行政、他団体との関係性を深める</p> <p>(1)必要時訪庁、訪問し顔の見える関係を構築する</p> <p>(2)行政、他団体からの業務依頼協力</p> <p>2)行政、他団体の会議、研修会への積極的な参加</p> <p>3)学会での演題発表</p> <p>4)各関係団体からの情報を、会員へ遅滞なく伝達共有する</p> <p>3.</p> <p>1)会員の獲得(目標 150 名)</p> <p>(1)現会員からの、助産師会へ望む事を調査する</p> <p>(2)スキルアップ研修(例-実技研修等)</p> <p>(3)潜在助産師に向けて入会のアピール(HP、SNS で PR し潜在助産師を発掘)</p> <p>2)HP、SNS の有効活用(グループウェアを活用し会員相</p>	<p>1.</p> <p>1)事務所改修工事は 9 月に終了。しかし、マンパワー不足もあり、事業獲得、事務所の修繕後の活用まで、着手出来なかった。またコロナ感染症の影響で、事務所を活用するには至らなかった。</p> <p>2)会員の減少に伴い、理事数 1 名減</p> <p>3)zoom 契約を増やし滞りなく開催</p> <p>4)事業獲得は達成せず</p> <p>5) 1)と同様</p> <p>2.</p> <p>1)2)共に行政との対話働きかけにより、関係性は深められた。</p> <p>3)母性衛生学会、日本助産師学会での演題発表も行い、高評価を得た。</p> <p>4)HP、SNS で迅速に対応できた。</p> <p>3.</p> <p>1)会員からの調査、スキルアップ、潜在助産師への働きかけは実行出来ず、HP、SNS を通じてアピールを行うも会員獲得が出来なかった。</p> <p>2)一部活用出来た(理事会、委員会係での活用)</p> <p>3)会員表彰支援、産後ケア実務助産師終了者申請支援は順当に行えた。表彰者推薦の実績は下記の通り。</p>

	互のコミュニケーションを図る 3)会員の表彰を積極的に推進する	日本助産師会会長賞 2名 永年活動者感謝状 1名 奈良県看護功労者知事表彰 1名
--	------------------------------------	--

目的 1.より安全な助産所への発展

2.開業助産師の資質向上と社会的地位の確立

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 嘱託医療機関との連携整備と契約継続</p> <p>2. 有害事象ゼロと事故の再発防止</p> <p>3. 助産診断能力の獲得・確認</p>	<p>1.</p> <p>1)日頃より嘱託医との間で、様々な状況を想定した連携や始動方法について具体的に協議し共通理解・合意しておく (各助産所でフロー作成と実践、顔の見える関係作り、可能な限り健診に同行)</p> <p>2)後方支援病院等の研修受講 奈良県産婦人科実地臨床研究会・奈良医大周産期症例研修会への参加(必須)</p> <p>3)奈良県周産期医療協議会への参加 母子保健推進会議への参加</p> <p>2.</p> <p>1)助産業務ガイドラインを全員が同じ認識のもと遂行 (具体的ケア・管理方法の協議)</p> <p>2)包括指示の遵守、各助産所で業務実践フローの確立</p> <p>3)他者評価による公平性のある助産所評価を実施(年1回)</p> <p>4)転院搬送全事例の検討会実施と承認、各事例の課題と改善点・対策を捻出し、実践評価する(安全対策と協働)</p> <p>5)部会員全員の NCPR 更新:部会での研修会企画 母体救命 J-CMEL 等の資格取得</p> <p>6)個人情報保護を保護する</p>	<p>1.</p> <p>1)各助産所で嘱託医療機関契約・継続について、嘱託医と円滑な連携が出来るように書類の作成・整備・実践し、努力はし続けている 新規で嘱託医契約締結できた助産所も嘱託医との間での書類作成・整備は出来ている</p> <p>2)全助産所参加</p> <p>3)奈良県周産期医療協議会・奈良県周産期年報編集会参加 母子保健推進会議(奈良市・天理市・大和高田市)</p> <p>2.</p> <p>1)助産業務ガイドラインに基づいて概ね業務は遂行されている(助産所安全管理評価にて)</p> <p>2)実施されている(助産所安全管理評価にて)</p> <p>3)3部会の部会長・安全対策委員で助産所安全管理評価を行った。違った視点で意見が聞けて課題の明確化・業務の効率化につながった</p> <p>4)転院搬送事例について助産所部会長・副部会長・安全対策委員で協議を行い、承認し日助に送信した 転院搬送事例の部会員全員で症例検討は行っていない</p> <p>5)2023年1月・2月 NCPR 研修会実施(医大) 母体救急 J-CMEL については参加できていない</p> <p>6)実施できている</p>

	<p>3.</p> <p>1)アドバンス助産師の取得、更新のための研修受講</p> <p>2)部会主催の研修会実施</p> <p>3)記録(各種管理記録・助産録・マニュアル等)の整備</p>	<p>3.</p> <p>1)アドバンス助産師:新規取得者・更新者なし 研修受講は行えている</p> <p>2)研修会は行えていない 転院搬送事例で搬送先のスタッフを交えての部会としての検討会を実施した。助産業務ガイドラインを遵守し、当該助産院の分娩時の体制強化・受け入れ先の事情も考慮して、早期の搬送が必要であると再認識した</p> <p>3)整備されている</p>
--	---	--

2022年度 事業報告

保健指導部会

目的 地域での母子保健活動が円滑に実施でき安全で責任のある助産ケアが行える。

目標	計画・具体策	評価
1. 安全で安心な保健指導、母乳育児支援を行う。	1. 本部の母乳育児支援評価がなくなったが、乳房ケアで開業している助産師は今まで同様に本部の調査票を基準に業務が行えるように推奨していく。	1. 本部の安全管理評価表の調査を行い、集計して提出した。回答率 23.3%と非常に低い結果となった。自施設を持たない(無床)訪問を中心に活動している会員にとって非常に回答しにくい内容だったので内容の検討を要望した。
2. 地域母子保健に携わる助産師として質の向上を図る。	2. 奈良県助産師会・本部研修会に参加し自己研鑽に努める。	2. 奈良県助産師会・本部研修会に参加し、部会集会以て伝達、部会員の研鑽に努めた。部会員からの伝達講習なども実施した。
3. 都道府県保健指導部会集会、特に近畿保健指導部会集会と連携を図る。	3. 各地区研修会の部会集会に参加し、情報共有問題・課題の解決に努める。	3. 各地区研修会の部会集会に参加、部会員との情報共有を行い、アウトリーチ型産後ケアに参入できる指導員を育成することが課題と考え、来年度の希望研修の計画をたてた。
4. 地域における行政・関係機関との連携を図る。	4. 市町村訪問指導者会議は年1回が大半のため、各リーダーとの連絡を密に行い、事故予防、新規指導員の活動状態の把握、市町村の動向、会からの連絡等を行う。	4. 市町村会議には委託訪問理事のみが出席し、部会としての連携はとれなかった。部会集会の中で、各市町村の取り組みの紹介を行い、市町村の動向の共通認識に努めた。
5. 保健指導部会安全マニュアルを定着させる。	5. 会の安全対策マニュアルに準じ保健指導部会安全マニュアルを継続的に追加・修正を行い、部会にて周知する。	5. 安全対策マニュアルの追加・修正はなかった。
6. 保健指導部会員が訪問事業以外にも活動を展開でき、人数の確保を目指す。	6. 地域助産師としての活動の場を訪問事業以外に展開できるように本部・地区集会参加時に意見を出し、理事会・部会集会で報告、協議する。活動の拡大に伴い、保健指導部会員の確保に努める。	6. 本部・地区集会参加時の話し合いの中で、部会員一人一人の開業できる力が必要であることが分かった。保健指導部会員の人数の確保については引き続き検討する。

目的 情報提供を行うことで勤務部会員の活性化を図り、会員の会得をすすめる。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 勤務部会員に魅力ある助産師会の情報発信をすることで、会員数を増やす。</p> <p>2. WHC 能力を高める研修会を行うことで、助産師会の必要性を伝える。</p>	<p>1.</p> <p>1) 勤務部会集会を開催する。</p> <p>2) 日本助産師会会員システムの一斉メールを利用して情報発信を行う。</p> <p>3) 勤務部より会員会得に向けて、研修会などの情報提供を月に1回はおこなう。</p> <p>2.</p> <p>1) 教育委員会主催研修会の勤務部会担当研修をおこなう。</p> <p>2) 勤務部会集会などで、各勤務病院に研修会等のアナウンスを働きかける。</p>	<p>1. 勤務部会集会は、2/4 に開催した。参加人数は、少なかった。</p> <p>日本助産師会勤務助産師集会及び奈良県助産師会の研修情報を一斉メールや band 配信した。情報の提供は、おこなえた。band の参加は、43%にとどまっているため、引き続きホームページ、メール、band 発信をおこなう。</p> <p>2. 教育委員会主催研修会の勤務部会担当研修及び、勤務部会集会では、参加人数に変動があり、引き続き、周知の必要性があった。</p>

2022 年度 事業報告

広報委員会

目的 ホームページの編集や三部会だよりの発行・SNS 発信を通して当会の認知向上及び専門的な情報発信による社会的貢献を果たす。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 三部会だよりのペーパーレス化を推進し、ホームページが会員にとって、情報を得る新しいツールとして定着し、活用できるものとなるよう内容の充実を図る。</p>	<p>1. 1)部会・委員会・係の依頼を受け、校正・掲載作業を迅速に行う。 2)広報委員メンバーが新しく入れ替わっても同じ作業ができるように、編集作業のマニュアルをより良いものに随時更新していく。 3)ホームページパトロール(各月担当制で随時)を行う。 4)今後完全にペーパーレス化していけるように、三部会だよりの発行意義を考えていく。 ①三部会だよりを例年の年4回発行から1回減らし年3回発行(7・11・3月) ②三部会だよりに掲載している内容をホームページに掲載していけるよう各委員へ提案していく。 ③郵送希望されている方についてはペーパーレス化に向けての啓発を続けると共に、知りたい情報は何かを考え、お届けできる物の内容、発行回数を検討していく。</p>	<p>1. 1)依頼を受けて1週間以内に掲載することはできている。 2)現在のマニュアルで問題なく作業ができているが、新たに作業に加わった人からも意見を聞きながら、分かりにくい箇所があればマニュアル更新をする。 3) 不要になった原稿の削除作業が主な仕事であるが、アップされた原稿が古く、削除したほうが良いかとも思っても、掲載した人でないと削除がためらわれ、できていない箇所もある。 4)完全ペーパーレス化にしないで、郵送希望者には郵送することで、ホームページをみる習慣のない会員に対しても会の動向を伝える手段になり、一人の大切な会員でいてもらうことになる。 ① 年3回の発行にしたが問題なく経過している係の負担の軽減になり、郵送料の削減になる ② 各委員より掲載依頼などうまく活用されている ③ 現在の郵送希望者には確認作業をしたので新たに入会された方に対して確認作業とペーパーレスの啓発をする。各係より届けたい情報や内容をスムーズに頂けている。 発行回数は今の所は特に問題なく、年3回で続行する。</p>
<p>SNS チーム 1.他部門と連携して当会活動内容及び専門的な情報</p>	<p>1.研修会案内、イベント、講座、会議など当会の活動</p>	<p>1. 投稿は定期的に実施できた。必要時チームから</p>

<p>発信を行う</p> <p>2.Instagram フォロワー数 300 獲得</p> <p>3. Twitter の連動</p> <p>4. チームメンバー4名確保</p>	<p>状況や内容をタイムリーに発信する</p> <p>2.HP 掲載内容(最新情報、助産師マップなど)を写真、文章、描写など工夫して投稿する</p> <p>3.各部会・委員会・係りから依頼があれば連携して発信を行い、必要時各部署へ投稿の提案をする</p> <p>4.SNS チームで投稿を企画(助産所紹介、助産師紹介、ブログ、妊娠出産育児や母子に関する最新情報など)</p> <p>1.月 2～3 回程度投稿を維持する</p> <p>2.フォローを増やしてフォローを獲得する</p> <p>1.2022 年前半期に Twitter を導入の企画案を出し、議決されれば、後半期に連動を完了させる</p> <p>2.マニュアル作成</p> <p>・会員へチーム活動内容をBANDやHPを通じて発信する(可視化)</p>	<p>各部署に提案し、投稿の作成をして連携を図ることができた。</p> <p>2. フォロワーは増やすことができたが目標値には満たなかった</p> <p>3. 連動できず</p> <p>4. 実動できるメンバーの増員を図れなかった</p>
---	---	---

2022 年度 事業報告

教育委員会

目的 助産師の専門職業人としての能力を維持・向上させ、安全、安楽な助産ケアを遂行させる為に専門性の高い知識・技術を習得できる機会を提供する。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 助産師としての資質を高める研修を計画・開催し、より多くの参加ををる。</p> <p>2. 産後ケアの法制化に伴う必要な指定の研修会を企画・開催する。</p> <p>3. 研修会の周知を行い参加者の増加を図る。</p>	<p>1.-1) 継続的・長期的視野で、又会員の要望する研修会を企画・開催する。(各部会で検討)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務部会 妊娠期のメンタルヘルスケア(選択研修・産後ケア⑨) 股関節(選択研修・産後ケア⑤) ・助産所部会 児童虐待・面前 DV(選択研修・産後ケア⑩) ・保健指導部会 接遇(選択研修・産後ケア④) 合併妊娠(DM 含む) (CLoCMiP・選択研修・産後ケア②) ・役員会 奈良県必須研修 医療安全(CLoCMiP) ・災害 <p>選択研修5講座・CLoCMiP2 講座を含む合計7講座を予定 ⇒ 資料② 2022 年度研修計画表参照</p> <p>2.-1) 日助指定の産後ケア研修 該当研修 3 講座</p> <p>3.-1) 公式グループウェア band、日助の一斉メール、 奈助インスタグラムでの周知に加え他</p>	<p>1. 2022 年度研修報告表を参照</p> <p>今年度も各部会の希望する研修をオンラインで 6 講座開催。(選択研修 5 講座・産後ケア研修 5 講座・CLoCMiP 認証研修 2 講座)参加者は、329 名と前年度より 24 名減少。その理由として、災害研修の開催が無かった事、録画視聴研修が 3 講座と少なかった事が考えられる。部会別では、勤務部会が 112 名と年々増加。逆に保健指導部会は 121 名から 96 名と減少が著しかった。非会員の参加も、57 名(-6 名)と減少したものの、医師や医学生、理学療法士等の他職種の参加がみられた。参加者は減少したが、収益自体は、74 万と去年より 5 万の増加となった。今年度新入会員が 2 名で特典を生かす事が出来なかった事も 1 要因と考える。(昨年特典利用 32 件今年 1 件のみ)研修アンケートの結果では、今年度も各研修会に対して「満足」、「参加して良かった」等、高評価を得る事が出来た。</p> <p>2.-1)6 講座中 5 講座が産後ケア研修に該当</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習項目② 妊娠合併症 学習項目④ 助産師としてより良い支援をするために 学習項目⑤ 股関節 学習項目⑨ 妊娠期のメンタルヘルス 学習項目⑩ 児童虐待 <p>3.-1) 昨年同様、BANDと一斉メールで研修案内を 3 回配信し研修会の周知を図った。更に、一斉メールに部会</p>

<p>4. スムーズで円滑な研修会を開催する。</p>	<p>機関への勧奨等で、研修会の周知を行う。</p> <p>4.-1) コロナ感染の終息の目途が立たない為、当面はオンライン研修中心での企画・開催とする。</p> <p>-2) スムーズで円滑な研修会を開催する為に、各部会との連携を取り、その都度教育会議で検討を行う。</p>	<p>からの研修アピールを掲載し、受講したい気持ちを高める試みを行った。アピール文掲載メールの配信後の申し込みが比較的多く、次年度も継続して掲載する予定。</p> <p>又、インスタグラムを観て申し込みする方も増えている為、研修受講者の感想文(同意分のみ)配信を行い研修会の周知を図った。又研修申し込みをその場で行える様に、一斉メールや BAND の研修案内に、「申し込みフォーム」URL を貼り付け、申し込み忘れの防止を図った。</p> <p>4.-1) オンライン研修の方が、集客が多く、録画視聴も可能な事から感想文にも、オンライン研修を続行して欲しいと望む声が多いが、中には対面研修を望む声もある為、今後は可能な限り、ハイブリッド研修を取り入れる等、対策を講じたい。</p> <p>-2) ①研修会毎に、教育会議を前後で行い、話合う時間を取った。(教育会議 6 回開催)</p> <p>②研修スケジュールで、教育・部会・講師で、研修会の進行の連携を図り、研修後は参加者の感想文を共有し、研修の評価を行った。</p> <p>③各部会の研修目的・目標等、行いたい研修を実現する為に、「研修計画依頼書」の導入を試みる事に。</p>
-----------------------------	--	---

奈良県助産師会 2022年度 研修報告表

2023..2.4更新

	テーマ	講師名	日程	場所・方法 (担当部会)	収支決算	参加者内訳	録画視聴 (累計)	累計参加者数
1	選択研修・産後ケア⑨ 妊娠期に応じた精神的ケアの実際 ～産後ケアにつながる切れ目のない妊娠期 の精神的支援～	大阪医科薬科大学病院看護部 専門看護師長/ 精神看護専門看護師(リエゾン) 宮田郁氏	2022.6.11(土) 13:30～16:30	ZOOM 録画視聴あり (勤務部会)	収入 218,000 支出59,548 収支158,452	参加者66名 会員54 保15・助11・勤28 非会員12名 保3・助8(県内2・ 県外6)・学1	申込み25 欠席 4名 29名	参加者66名 会員54 保15・助11・勤28 非会員12 保3・助8・学1
2	選択研修・産後ケア⑤ 股関節を中心とした児の健康診査	秋津鴻池病院 リハビリテーション科部長 奥村元昭先生	2022.8.20(土) 13:30～16:30	ZOOM 録画なし (勤務部会)	収入 236,000 支出69,572 収支166,428 (累計324,880)	参加者66名 欠席2名 会員45 保19・助9・勤17 非会員21名 保5・助13(県5・ 県外7・不明1)・	録画配信 無し0名 (29)	参加者132名 会員99 保34・助20・勤45 非会員33保8・助21・ 看2・学2 欠席2名
3	選択研修・産後ケア⑩ 児童虐待の現状と防止対策 ～小児科医と助産師が共に考える～	奈良県立医科大学名誉教授 奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」 代表 吉岡章氏	2022.9.17(土) 13:30～16:30	ZOOM 録画視聴あり (助産所部会)	収入 194,000 支出49,632 収支144,368 (累計469,248)	参加者57名 会員42 保9・助11・勤22 非会員15名 助12(県4・県外 8)・医師1・心理士 1・医学1	申込み12 欠席 2名 14名 (43)	参加者189名 会員141 保43・助31・勤67 非会員48保8・助33・ 看2・医師1・心理師1 医学1・学2
4	選択研修・産後ケア④ 助産師としてより良い 支援をするために	Felien(フェリアン) 副所長 津村薫氏	2022.11.26(土) 13:30～16:30	ZOOM 録画なし (保健指導部会)	収入 104,000 支出54,993 収支49,007 (累計518,255)	参加者34名 会員33 保14・助9・勤10 非会員1名 助1(県外)	録画配信 無し0名 (43)	参加者223名 会員174 保57・助40・勤77 非会員49保8・助34・ 看2・医師1・心理師1 医学1・学2
5	90分CLoCMiP・90分選択研修 産後ケア② 妊娠合併症	大阪母子医療センター 母性内科主任部長 和栗雅子氏 母性内科副部長 嶋田真弓氏	2022.12.17(土) 13:30～16:30	ZOOM 録画なし (保健指導部会)	収入 160,000 支出55,546 収支104,454 (累計622,709)	参加者48名 欠席3名 会員37 保15・助10・勤12 非会員8名 助8(県外)	録画配信 無し0名 (43)	参加者271名 会員211 保72・助50・勤89 非会員56保8・助42・ 看2・医師1・心理師1 医学1・学2 欠席5名
6	CLoCMiP研修 奈良県助産師会必須研修 医療安全と助産師の法的責任	獨協医科大学 上杉奈々氏	2023.1.21(土) 13:30～16:30	ZOOM 録画視聴あり (役員会) (安全対策委員会)	収入 176,000 支出58,217 収支117,783 (累計740,492)	参加者58名 会員57 保24・助10・勤23 非会員1名 助1(県外)	申込み13 欠席 6名 19名 (62)	参加者329名 会員268 保96・助60・勤112 非会員57保8・助43・ 看2・医師1・心理士1 医学1・学2 欠席5名
7	災害研修	無し						

目的 組織強化委員会の役割を明確化し、安全な個人情報管理を図り、健康な会のイメージで会員加入働きける。このことにより、会員の増加を図る。

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 日本助産師会会員システムの会員マイページの情報を安全管理していく。個人情報管理関係研修に参加して組織強化委員会としての役割を意識化して明確化する。</p> <p>2. 会員数の増加を図る。</p> <p>3. 賛助会員の増加を図る</p>	<p>1. ①前年度に本部の会員マイページより会員の個人情報の共有ができるようになった。情報漏洩のない環境下で、個人情報の確認を委員3名で正確に行っていく。 ②個人情報管理に関する研修を受講する。 ③日本助産師会からの各個人に関する重要事項を速やかに伝達する。 ④会員マイページに沿い、依頼のあった情報を一斉メールで伝達する。 ⑤名簿や BAND の個人情報漏洩しないように管理する</p> <p>2. ①リーフレットの印刷をおこない、各助産所、大学に配布、病院等設置依頼していく。 ②研修会や実習などで、学生に就職年度の当会入会を働きかける ③三部会だよりに最新の会員情報や入会の協力を毎回載せていく。 ④退会や移動等の相談があれば真摯にうける。 ⑤復職支援セミナー、進学ガイダンスなどが再開となれば参加し活動する。 ⑥看護協会との協働を念頭に、情報共有の場があれば、積極的に参加する。</p> <p>3. ①賛助企業法人会員・賛助個人会員の入会を勧める ②賛助会員入会者に対し情報収集し理事会で審議・採決・手続きを勧めていく</p>	<p>1. ① 特に個人情報の確認をし直す必要はなかった。 ② 受講できなかった ③ 各部署への個人情報の重要事項の伝達は速やかに行えた。 ④ 一斉メールの伝達は行えた。 ⑤ 名簿も BAND もシステム上にある情報はシステムの問題がない限り、情報の漏洩がないように管理できている</p> <p>2. ① 今年度はリーフレットの新たな印刷は行っていない また、各施設への依頼もできていない ② コロナの影響で研修会がオンラインでの開催のためできていない ③ 一応できた ④ 特に相談がなかった ⑤ 再開されていないか案内がなかった ⑥ 特に機械がなかった</p> <p>3. ① 入会の働きかけはしていないがホームページ上には募集をのせていただいている ② 入会希望者がなかった</p>

目的 会員の安全意識と会全体の安全文化の向上業務環境の安全管理と運営

目標	計画・具体策	評価
<p>1.有害事象ゼロを目指す。 (会員の安全意識向上と安全文化の醸成)</p> <p>2.インシデント、アクシデント報告の出しやすい症例検討会をめざす</p> <p>3.個人情報保護の徹底</p>	<p>1.</p> <p>1) 役員会と安全対策の共催による安全必修研修会の企画</p> <p>2) 助産所安全管理評価を第三者評価とする</p> <p>2.</p> <p>1) インシデント、アクシデント報告について部会員間で症例検討会において共有する (匿名性の保障とグループワークによるフィードバック)</p> <p>2) スムーズな規定に沿った報告、分析、対策等フローの徹底</p> <p>3) 保健指導部会のインシデント、アクシデント報告のまとめとフィードバックを行う</p> <p>4) 助産所部会は分娩 IT 登録及び症例検討を実施し、再発防止に努める</p> <p>3.</p> <p>1) 各部会での個人情報取り扱いマニュアルの厳守</p> <p>4.その他</p> <p>1) 助産所部会の転院、搬送報告を奈良県産婦人科医会と周産期年報に向けて作成</p> <p>2) 引き続き、奈良県医療安全推進センター研修会への一般会員の参加を促す(BAND と HP を通じて)</p>	<p>1.</p> <p>1) 実施された</p> <p>2) 第三者評価(自己評価でなく、助産所部会長、助産所部会員、安全対策係)による対面の他者評価を実施した</p> <p>2.</p> <p>1)2)3) 保健指導部会においては奈良県独自の様式によるインシデント、アクシデント報告及び集計がなされ、必要な事例については保健指導部会での事例検討を実施できている。 助産所部会については、日助作成のインシデント・アクシデント報告の内容が実情にそぐわないものとして運用していない(毎期日助との同じやりとりを繰り返しており、再考の必要あり)</p> <p>4) 助産所部会は分娩基礎データの IT 登録にくわえ、異常・転院報告事例については症例検討を実施する方向であったが、1 転院事例について転院先のスタッフも含めたカンファレンスの機会を持ったのみ</p> <p>3.</p> <p>1) 保健指導部会、助産所部会共に特に問題は無し</p> <p>4.</p> <p>1)実施済</p> <p>2) 奈良県医療安全推進センター研修会へはテーマによって助産所部会員の参加あり</p>

目的 助産師会として災害対策予防行動、災害発生時の対処行動ができる

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 助産師会として役割を考え、災害対策予防行動、災害発生時の対処行動を実行でき、県下の母子支援について考えることができる</p>	<p>1. 委員会活動 1)年6回の委員会の開催 2)年1回の近畿地区合同委員会の参加 3)本部研修会・連携集会への参加 4)本部と連携した近畿圏の災害対策会議への参加</p>	<p>1. 1)委員会活動は年6回 オンラインで開催した 2)近畿地区合同委員会への参加は年2回オンライン開催し参加した。ホストとして近畿地区各県災害委員長及び災害委員が顔の見える関係で情報交換し、協定締結や県や市との協定について、各県の助産師会の災害対策の課題について話し合った。 3)11/5 日本助産師会災害連携集会オンライン集会で、委員全員が参加した。本部での運営のため委員長のみ本部でのファシリテーターとして参加した 4)日本助産師会災害対策委員会会議オンラインに10回/年参加し、対面式で1回/年参加した。助産雑誌に内容掲載予定 5)近隣県活動視察→京都府広域災害訓練3名視察</p>
<p>2.コロナ感染と災害が同時発生した設定についても想定する対処を検討。</p>	<p>2. 奈良県下の母子に対して災害対策・減災について啓蒙 1)シェイクアウト訓練の参加 コロナ状況をみながら感染拡大しない方法で実施。自助・共助の意識を高められるように訓練する。各自が地域とのつながりを深める 2)HPを通して情報提供ができるようにする</p> <p>3.奈良県下の母子災害支援について考え行動できる ①県や市と連携した広域災害訓練に参加。 県下の助産師同士の連携を考え母子支援について、参</p>	<p>2. 1)7月5日実施。団体名エントリーし参加した 2)以下のことをSNSで情報提供 シェイクアウト訓練(7/5) 奈良市総合防災訓練(10/30)参加の様子</p>

<p>3. 会員用災害マニュアル完成し会員が奈良県下での防災・減災についてかんがえることができる</p>	<p>加を通して考えることができる</p> <p>4. 災害マニュアル改定 本部承認後IP掲載</p> <p>①委員会活動内で災害マニュアル検討を行う</p>	<p>3.</p> <p>1) 10/30 奈良市総合防災訓練に委員 3 名参加 日本助産師会の方針にのっとり、避難所訓練参加</p> <p>2) 災害マニュアル検討中・改定中</p>
--	---	--

2022 年度 事業報告

健康教育係

目的 目的1：安全で対象者のニーズに応じた、より良い出前講座の開催を行う。目的2：講座担当者の確保に努め、研鑽による講師力の向上をはかる

目標	計画・具体策	評価
1. 1) 感染対策の順守 2) 個人情報の保護 3) 教材の整備と保守管理 4) マニュアルの整備 5) ニーズの把握・評価	1. 1)-(1)感染予防マニュアル順守はかるため担当者会議で周知する 1)-(2)感染対策物品の確保・管理を行う 2)-(1)個人情報保護に関する会の研修会を受講する 2)-(2)公文書ならびに報告記録の確認と保管管理を行う 3)-(1)講座後の点検、必要時には修繕を実施 3)-(2)教材使用予定、所在(受け渡し・返却)の把握 3)-(3)教材の整備を行う：布教材の再作成(小学生用掛け図)視聴覚教材購入(DVD生まれる)) 4) 各種マニュアルについて随時情報の見直し・改訂を実施 5) 講座後アンケートの集計・評価から、ニーズの把握と講座内容の改善点を模索する。	1. 1)-(1)達成：担当者会議で随時周知 1)-(2)達成 2)-(1)達成：1月21日の必須研修を勧奨 2)-(2)達成：誓約書はデータ保管していく方向へ 3)-(1)達成：ペニス模型修繕 3)-(2)達成：担当者より報告随時あり、把握 3)-(3)達成：布教材再作成、視聴覚教材購入 済み 4) 達成：各種マニュアルを改訂 5) 達成：回収率100%、すべての項目において「非常に良い」「良い」が95%以上 担当者会議にて共有・意見交換実施
2. 1) 広報等による周知・募集 2) 他団体の研修会への参加 3) 講座担当者間の交流	2. 1)-(1) 新HPや三部会だよりでの広報による活動内容の周知・担当者募集を行う 1)-(2) 会員へ講座見学の勧奨を行い、出前講座の実際に触れてもらう機会を作り、新たな講座担当者の確保につなげる 2) 日本家族計画協会等、活動に関連する他団体の研修会勧奨し研鑽の機会作りに尽力する 3) グループウェアの活用や担当者会議での情報共	2. 1)-(1)達成：三部会だよりでの広報実施 1)-(2)達成：新たな講座担当者の確保6名 2) 達成：研修会勧奨(県養護教諭研修会) 日本助産師会の思春期研修会参加 2名 日本家族計画協会関連の研修会参加もあり 3) 現在は担当者会議にて意見交換の時間を毎回確

<p>4) メイン講師の維持・確保</p>	<p>有時間を確保、講座担当者間の交流から経験・情報の共有をはかり、活動意欲の維持につなげる</p> <p>4)-(1)活動中のメイン講師数(6名)を維持しつつ、さらなるメイン講師の育成・確保に努める</p> <p>4)-(2) 依頼先との調整を行い講座担当者の待遇を整備し、作業負担の軽減を図ることでモチベーション維持に努める</p>	<p>保のみ、交流促進を次年度の課題とする</p> <p>4)-(1)未達成：メイン講師数は6名維持できたが、さらなる確保はできず</p> <p>4)-(2)達成：記録用紙改訂、作業負担の軽減図る</p> <p>令和4年度 出前講座の依頼・実施報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座依頼数：75件 ⇒うち実施：72件 (小学：29、中学：39、高校：3、保護者：1) ⇒キャンセル：3件 (理由：日程調整つかず、内容や料金折合わず)
-----------------------	--	--

目的

子育て世代への多様化する支援・役割を担う

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 子育てアンケート調査研究の公表</p> <p>2. 子育て情報の定期的更新</p> <p>3. 子育て情報発信を他部門と連携して実施</p>	<p>1.</p> <p>1) 当会ホームページ上で調査結果を一般向けに掲載</p> <p>2) 協力を得た全ての行政、医療機関や団体に対し調査結果の報告と令状等を送付</p> <p>3) 奈良県母性衛生学会での研究発表への参加 (令和4年7月)</p> <p>2.</p> <p>1) 当会ホームページの子育て Q&A は情報が変更時及び年4回のチーム内協議において最新情報にする</p> <p>2) 助産所マップは掲載・更新依頼時すみやかに対応</p> <p>3.</p> <p>1) SNS チームへ最新の子育て情報提供や発信の提案をし、Instagramなどで投稿を協同で行う。</p> <p>2) 年4回のチーム内協議において投稿の提案をし、シリーズ化などの工夫をする</p> <p>例) 助産師紹介 子育て広場情報提供 絵本紹介 子育てお悩みシリーズなど</p>	<p>1.</p> <p>令和4年7月23日第36回奈良県母性衛生学会学術集会にて、アンケート調査結果を発表した。</p> <p>その後当会 Instagram にて発表状況の投稿を、当会ホームページには発表スライドと分かりやすく文章化した結果内容を公表し、協力いただいた一般の方々へ報告できる工夫ができた。</p> <p>調査協力を得た行政機関、団体等にはそれぞれ、二次抄録を郵送または手渡しにて報告した。</p> <p>2.</p> <p>ホームページ上の子育て情報は適宜更新できたが、助産所マップに関しては編集に時間がかかることもあった。メンバー間で協力し、編集は属人的にならないよう工夫するなど対応が今後必要。</p> <p>3.</p> <p>前半は研究結果の論文作成に予定より時間がかかり、新たな提案をしていくことができず計画立案のみになった。SNS による子育て情報発信は、子育てアンケート調査結果でも需要が高いこと明らかになったため、定期的に SNS チームへ提案していくことが今後の課題となった。</p>

2022 年度 事業報告

委託訪問係

目的 母子とその家族に適切な支援ができる。いっていいレベルの指導員を提供するとともに指導員が母子支援を円滑に遂行できるように市町村との調整

目標	計画・具体策	評価
<p>1. 業務改革。</p> <p>2. 市町村との委託事業継続のためのマンパワーの確保。</p> <p>3. 指導員の質の担保を図る。</p> <p>4. 後輩育成</p> <p>5. 各市町村との契約を円滑に遂行できるように配慮する。</p> <p>6. 個人情報保護。</p>	<p>1. 委託訪問事業としての業務内容の見直しをする。訪問指導員証発行費用を1000円から2000円に変更し、助産師会委託訪問に関わらず助産師会の指導員認定証を作成する。</p> <p>2. HP を活用し、潜在助産師を発掘する。</p> <p>1) 訪問指導員が増えるように指導員証発行条件の見直しを行う。</p> <p>3. 指導員申請用紙を活用する。</p> <p>1) 自己評価を申請条件に入れる。自己評価表は各市町村リーダーに提出し、リーダーは各評価に伴い必要なテーマで研修会を起案し、保健指導部会集会で共有できるシステムを作成する。</p> <p>4. 新規訪問指導員が訪問を始めやすくするように、オリエンテーションや同行訪問時の評価方法を検討する。</p> <p>5. 市町村会議出席および保健センターとの連携を図る。</p> <p>6. 訪問指導員の個人情報を守るとともに、訪問指導員が関わる妊産婦の個人情報を守るために契約書の読み合わせを行う。</p>	<p>1. 指導員証は指導員の協力を得られ、19名には発行できた。</p> <p>2. R4 年度は新規 3 名が委託訪問事業に参加し、3 名が外れた。欠員のため委託市町村に迷惑をかける状況には至らなかった。HP 活用はできていない。</p> <p>1) 指導員証発行条件に関しては、質の維持を考えた上で現状維持の状態となる。</p> <p>3. 自己申請用紙は中間報告に使用したが、指導員の共通理解が難しい状態であった。次年度は次期に応じた内容を変更した申請書を使用する。自己評価表は今年度使用できていないが、市町村リーダーと話し合い、次年度は市町村ごとに部会集会以てテーマの提示ができるように働きかけていく。</p> <p>4. オリエンテーション内容は、次年度に向けて修正中。評価表は市町村リーダーと改訂に向けて参加してもらおう。</p> <p>5. 榎原市との契約は終了となる。次年度の契約書に関しては 2 月には全て本契約書作成依頼が行えた。</p> <p>6. 契約書添付書類として全委託市町村に個人情報保護に関する文章を添付している。各指導員は契約書を 1 部保管し随時確認可能な状況になっている。</p>

2022 年度 事業報告

不妊相談センター

目的 不妊,不育悩む女性やその家族の悩みに寄り添い、不妊に伴う悩みに対応できるよう支援する

目標	計画・具体策	評価
1. 治療に伴う悩みや専門的な相談や人生相談に対応できるための研鑽を深める。	1. 1) 不妊関連の研修会に積極的に参加し、知識理解を深める。 生殖心理学会、不妊相談員研修への参加 2) メンバー間の情報共有のため BANND など SNS を通してメンバー間の情報交換を活発に行う。 研修会報告、県担当者との情報交換会を開催する 3) カウンセリング法に関する知識技術をふかめる。 4) 健康保険適用など法改正に伴う相談に対応できるよう知識理解を深める	1. メンバー各自 ZOOM による不妊相談研修会に参加し最新の話題知識の理解に努めた。 2. メンバー間で最新の文献などを紹介しあい、各自で自己学習を行った。 3. 県担当者との連絡会議を開催し、不妊相談における現状、動向について報告し今後の課題について検討した。2022 年度相談件数 50 件 12 月末現在前年度 54 件 4. 厚労省の資料により保険適応についての具体的な内容の把握につとめ、相談に対応した。 5. カウンセリングに関する学びができなかった。
2. 不妊相談センターについて、会員、県民への周知に努める。	2. 公報等を利用し、相談センターの周知をはかる。	6. 各市町村の広報に相談センターの案内を掲載していただいたが、件数の変化は見られなかった。
3. 個人情報の保護に努める	3. 個人情報保護規定にもとづき、相談者の個人情報保護に留意する。	7. 記録文書の保管に留意し、個人情報の保護に努めた。 8. 新人メンバーが1名増え、スムーズに相談にあたることができた。